CASBEE北九州 評価結果

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル　■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	(仮称)リヴィエール前田さくら通り2新築工事	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※	/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.2	/5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.7	/5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6	/5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0	/5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築（新築） 2016年版　使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1 循環型社会への貢献　スコア平均 3.3

リサイクルに関する配慮

LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減　スコア 3.7

非構造材の一部にリサイクル材を使用

長寿命化に関する配慮

Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数　スコア 3

Q2/ 3 対応性・更新性　スコア 3.1

階高を3.00m以上とする

2 地球温暖化対策の推進　スコア平均 3.7

省エネ・省資源に関する配慮

LR3/ 1 地球温暖化への配慮　スコア 3.4

断熱等性能等級4相当
電気ヒートポンプ・瓦斯瞬間式併用型給湯温水暖房機の採用

節水に関する配慮

LR2/ 1.1 節水　スコア 4

節水型便器の採用

3 豊かな自然環境の確保　スコア平均 1.7

生態系保全に関する配慮

Q3/ 1 生物環境の保全と創出　スコア 1

特になし

緑化に関する配慮

Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上　スコア 2

LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善　スコア 2

特になし

4 高齢社会への対応　スコア平均 3.0

バリアフリーに関する配慮

Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画　スコア 3

特になし

主な指標

建物の外皮性能（BPI評価）	
非住宅：BPI値、住宅：省エネ等級	等級4
建物の一次エネルギー消費量（BEI評価）	
非住宅：BEIm値、住宅：　ー	ー
外構緑化指数	3.94 %
建物緑化指数	0 %

：入力欄　：CASBEE－建築（新築）の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要

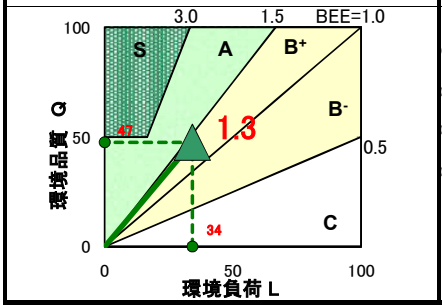
建物名称	(仮称)リヴィエール前田さくら通り2新築工事	階数	地上14F
建設地	福岡県北九州市八幡東区前田2丁目22-4他2	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	164 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年5月　予定	評価の実施日	2023年7月7日
敷地面積	978 ㎡	作成者	前畑亘紀
建築面積	536 ㎡	確認日	
延床面積	3,767 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

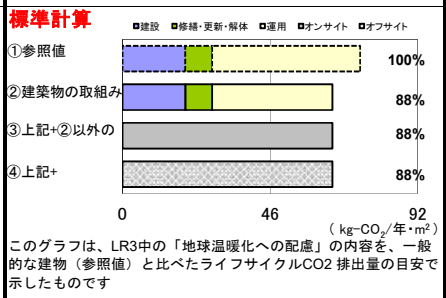
BEE =1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



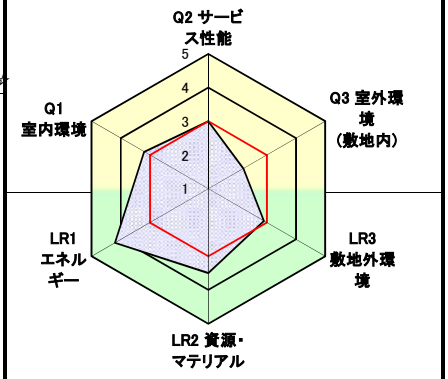
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

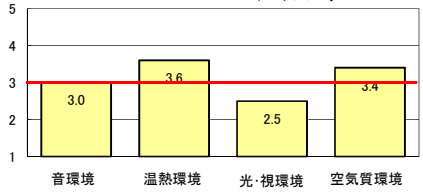
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



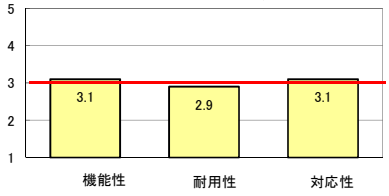
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 2.8

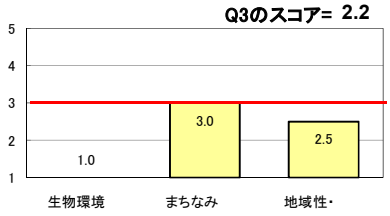
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

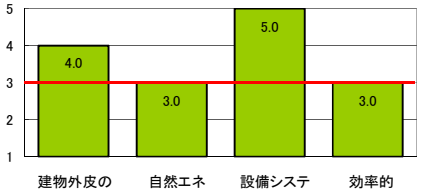


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.2

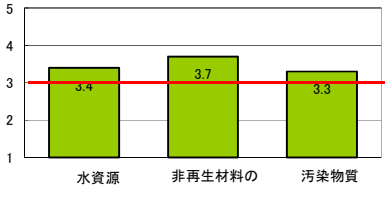


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.6

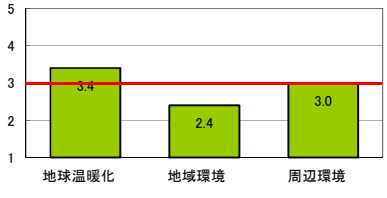
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.2



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.5



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=2.9



3 設計上の配慮事項

総合

全39戸の共同住宅において、周辺の街並みに配慮した環境形成と、子育て世代の居住に対応した防犯、住戸計画を行った。

その他

Q1 室内環境

内装の仕上げ材にF☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に使用。

Q2 サービス性能

住戸居室の天井高さを2.65m確保、また階高を3.11m以上とする。

Q3 室外環境（敷地内）

街路に面し植栽を配置することで、良好な景観の形成に寄与する。

LR1 エネルギー

断熱等性能等級における等級4相当。電気ヒートポンプ・瓦斯瞬間式併用型給湯温水暖房機の採用。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器の採用、構造耐力上主要な部分に高炉セメント、非構造材の一部にリサイクル材を使用。

LR3 敷地外環境

電気ヒートポンプ・瓦斯瞬間式併用型給湯温水暖房機の採用。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE−建築(新築)2016年版
(仮称)リヴィエール前田さくら通り2新築工事

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版
　欄に数値またはコメントを記入　■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								**2.8**
Q1 室内環境					**0.40**		-	**3.2**
1 音環境				**3.0**	0.15	**3.0**	1.00	**3.0**
1.1 室内騒音レベル				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
1.2 遮音				**3.0**	0.50	**3.0**	0.50	
	1	開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
	2	界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				**3.0**	-	**3.0**	-	
2 温熱環境				**2.6**	0.35	**4.0**	1.00	**3.6**
2.1 室温制御				**3.0**	0.50	**4.0**	1.00	
	1	室温		3.0	0.63	-	-	
	2	外皮性能	断熱等性能等級4相当	3.0	0.38	4.0	1.00	
	3	ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御				**1.0**	0.20	**-**	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				**2.7**	0.25	**2.5**	1.00	**2.5**
3.1 昼光利用				**3.0**	0.30	**2.0**	0.50	
	1	昼光率		-	-	1.0	0.50	
	2	方位別開口		-	-	3.0	0.30	
	3	昼光利用設備		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				**2.0**	0.30	**3.0**	0.50	
	1	昼光制御		2.0	1.00	**3.0**	1.00	
3.3 照度				**3.0**	0.15	**-**	-	
3.4 照明制御				**3.0**	0.25	**-**	-	
4 空気質環境				**3.0**	0.25	**3.6**	1.00	**3.4**
4.1 発生源対策				**3.0**	0.60	**4.0**	0.63	
	1	化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材を内部仕上げのほぼ全面的に採用(A-07)	3.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				**3.0**	0.40	**3.0**	0.38	
	1	換気量		-	-	3.0	0.33	
	2	自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33	
	3	取り入れ外気への配慮		3.0	1.00	3.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
	1	CO_2の監視		3.0	-	-	-	
	2	喫煙の制御		3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能				—	**0.30**	-	-	**3.0**
1 機能性				**3.0**	0.40	**3.2**	1.00	**3.1**
1.1 機能性・使いやすさ				**3.0**	0.40	**3.0**	0.60	
	1	広さ・収納性		3.0	-	3.0	-	
	2	高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	1.00	
	3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				**3.0**	0.30	**3.5**	0.40	
	1	広さ感・景観	住戸の天井高2.5m以上確保(A-18)	3.0	-	4.0	0.50	
	2	リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
	3	内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				**3.0**	0.30	-	-	
	1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
	2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				**2.9**	0.30	-	-	**2.9**
2.1 耐震・免震・制震・制振				**3.0**	0.50	-	-	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
	2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				**3.0**	0.30	-	-	
	1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
	6	主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				**2.6**	0.20	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.4	0.50	
	1 階高のゆとり	階高3.0m以上とする（A-18）	3.0	-	5.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ		3.0	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）			–	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.6
LR1 エネルギー			–	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.76	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			–	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメント	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		集成材、ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ(A-07)	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		壁紙の接着剤に有害物質を含まないものを採用（A-07）	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			–	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		電気ヒートポンプ・瓦斯瞬間式併用型給湯温水暖房機の採用	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	1.00	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	